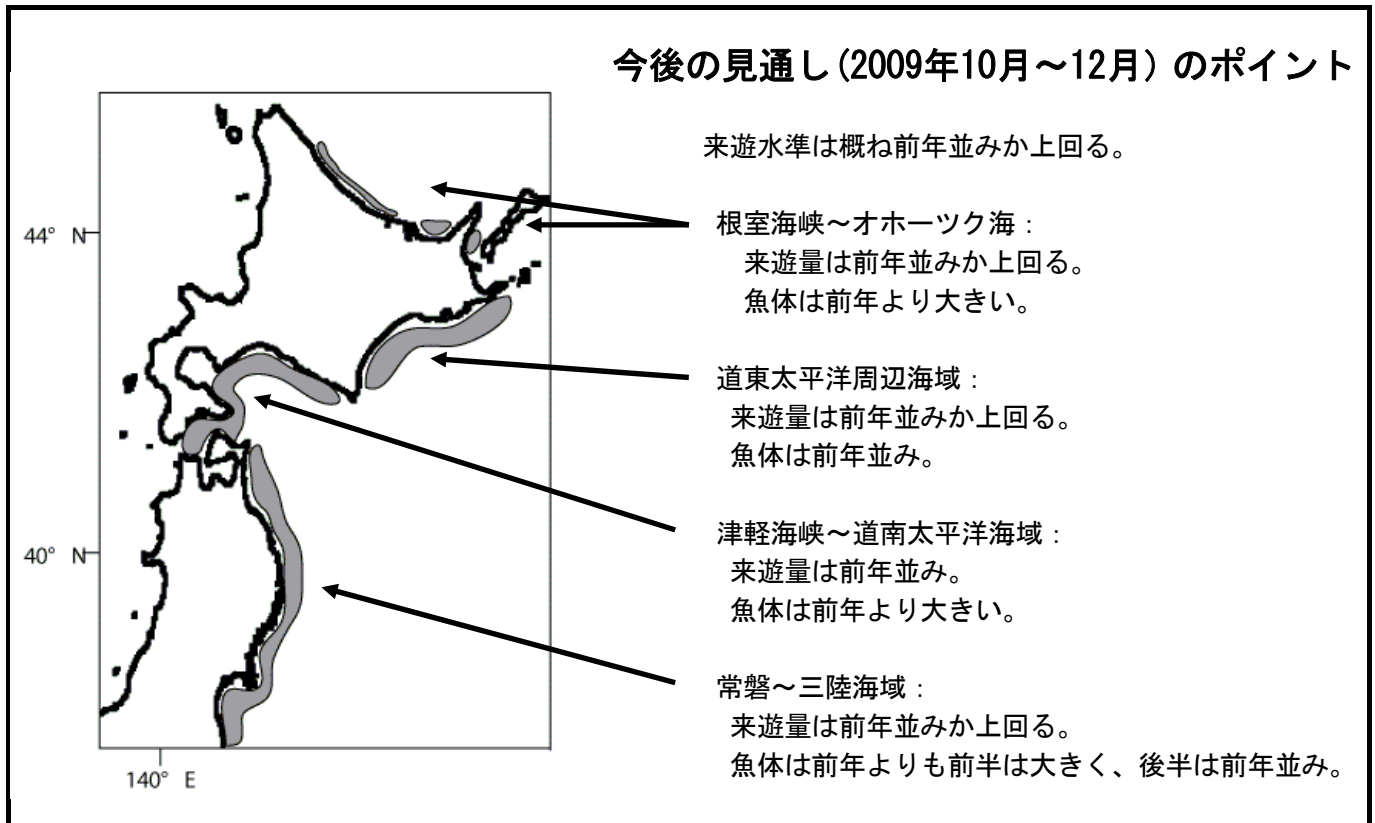


平成21年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：今井、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>

平成 21 年度第 2 回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2009年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海。

対象漁業：いか釣り、底曳網、定置網、まき網。

対象魚群：主に冬季発生系群（2009年級群）。

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底曳網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：前年並みか上回る。
- (2) 漁期・漁場：10月～11月が漁期の中心となる。
- (3) 魚体：前年よりも前半は大きく、後半は前年並み。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年並み。
- (2) 漁期・漁場：10月～11月が漁期の中心となる。
- (3) 魚体：前年よりも大きい

3. 道東太平洋海域（いか釣り、底曳網）

- (1) 来遊量：前年並みか上回る。
- (2) 漁期・漁場：10月まで漁場が形成される。
- (3) 魚体：前年並み。

4. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年並みか上回る。
- (2) 漁期・漁場：11月が漁期の中心となる。
- (3) 魚体：前年よりも大きい。

漁況の経過（2009年7月～8月）および今後の見通しについての説明

（1）資源状態

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは、冬季発生系群が主体であり、これに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970年～1980年代は低位水準で推移した。1989年から増加に転じ、1989年以降では1996年（年間漁獲量：276千トン）が最も資源水準の高い年となった。近年は高位から中位水準で推移しており、直近2年の漁獲量は2007年に大きく増加したが2008年は減少した。現在は中位水準と推測されている。なお、2008年10月～12月の常磐以北太平洋海域（根室海峡～オホーツク海含む）の漁獲量（生鮮）は78千トンであり、2007年同期（91千トン）を下回った（図1、図2）。

（2）関連調査結果

8月上旬～9月上旬に実施された第2次漁場一斉調査（北海道立函館水産試験場、岩手県水産技術センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、宮城県水産技術総合センター）および関連いか釣り調査（北海道立釧路水産試験場、岩手県水産技術センター）の結果（図3）、三陸海域（41°N以南、143°E以西）の平均CPUE（いか釣り機1台1時間当り漁獲尾数）は7.61尾であり、前年（7.64尾）並みであった。津軽海峡～道南太平洋海域（41°N以北、143°E以西）は18.19尾であり、前年（7.55尾）を上回った。特に浦河沖は91.29尾と高いCPUEを記録した。道東太平洋海域（42°N以北、143°E以东）は3.67尾であり、前年（6.58尾）を下回った。全水域では7.81尾となり前年（6.41尾）を上回った。

表層トロールネットを用いて実施した新規加入量調査（中央水産研究所・北海道区水産研究所、5月）によると、今漁期に加入すると予想される外套背長5cm未満の個体数は、前年比119%（近年5年間の平均比184%）であった。

（3）2009年の各海域の漁況経過（7月～8月、一部未集計）

2009年7月～8月の太平洋沿岸の主要港の水揚げ量（生鮮：各道県の速報値等の集計による）は27千トンで、前年（前年同期、18千トン）を上回った。特に八戸港の水揚げ量は13千トンで、前年の3千トンを上回った。各地域の詳細な漁況経過は、表1に示す。

（4）魚体の大きさ

・第2次漁場一斉調査で漁獲されたスルメイカの全調査地点の外套背長組成は、モードが20cmにある単峰型の組成であり、前年（19cm）より1cm大型であった。海域別では、三陸海域がモード19cm（前年：18cm）、津軽海峡～道南太平洋海域がモード20cm（前年：20cm）、道東太平洋海域がモード20cm（前年：19cm）であった（図4）。

・7月～8月に宮城県～北海道で漁獲されたスルメイカの魚体は、概ね前年並みか大型個体の割合が高かった（表1）。

(5) 今後の見通しの説明

・9月上旬現在の本予報対象海域である北部太平洋海域における漁獲対象資源は、本年8月までの各地の漁獲状況から判断すると、一部の海域で前年を下回るものの概ね前年並みか上回る水準であると推測される。5月に実施した新規加入量調査において、今後加入が期待される5cm未満のスルメイカの採集尾数は前年並みの水準であった。第2次漁場一斉調査の平均CPUEは三陸海域では前年並み、津軽海峡～道南太平洋海域は前年を上回り、道東太平洋海域では前年を下回った。以上のことから本予測期間である10月～12月の北部太平洋海域の来遊水準は概ね前年並みか上回ると予想される。

・常磐～三陸海域での漁獲対象資源は、三陸～津軽海峡周辺海域に分布する群を主体に道東太平洋海域から南下する群が加わると考えられている。8月～9月の三陸海域の調査船CPUEは前年並み、7月～8月の小型いか釣り船CPUE（1日1隻当たり漁獲量）は前年を上回った（表1）。8月～9月の津軽海峡～道南太平洋海域の調査船CPUEは前年を上回ったものの、7月～8月の小型いか釣り船CPUEは前年を下回った。道東太平洋海域の来遊量は前年並みか上回ると予測される（後述）。以上のことから常磐～三陸海域の来遊水準は前年並みか上回ると予測される。魚体は、一斉調査及び漁獲物の測定結果から、予測期間の前半は前年（10月、21～22cm）よりも大型個体が主体になるが、後半は前年（12月、24～25cm）並みになると考えられる。

・津軽海峡～道南太平洋海域での漁獲対象資源は、道東太平洋海域およびその沖合からの南下群が主体と考えられている。この群は津軽暖流の勢力減少にともなう水温低下とともに津軽海峡東口周辺海域から日本海に移動すると考えられる。道東太平洋沿岸域の来遊量は前年並みか上回ると予測される（後述）。道東太平洋9月のマサバ・マイワシ漁期中調査（流し網）において襟裳岬沖で漁獲されたスルメイカのCPUE（流し網調査1回当たり漁獲尾数）は前年を下回ったことから（北海道浮魚ニュース15号：北海道立水産試験場）、沖合からの加入は前年を下回ると推察される。9月～11月の津軽暖流の東方への張り出しは前年並みかやや東偏と予想されているため（東北海区海況予報 平成21年 No.3 2009年8月4日発行：東北区水産研究所）、スルメイカが津軽海峡東口周辺海域において滞留する期間は前年並みと考えられる。以上のことから津軽海峡～道南太平洋海域の来遊水準は前年並みと予測される。魚体は、一斉調査及び漁獲物の測定結果から前年（10月～12月、21～22cm）よりも大型の個体が主体になると考えられる。

・道東太平洋海域での漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられている。8月の道東太平洋海域の調査船CPUEおよび釧路港の小型いか釣りのCPUEは前年を下回った。しかし、新規加入量調査結果は前年並み、6月の第1次漁場一斉調査の沖合域におけるCPUEは前年を上回った。さらに9月上旬以降の小型いか釣りCPUEも前年並みから上回って推移している（表1）。以上のことから道東太平洋海域に来遊するスルメイカは前年並みか上回ると予測される。なお、近年の道東太平洋海域における漁獲量は11月には大きく減少するため、主漁期は10月で終了すると予測される。魚体は、一斉調査及び漁獲物の測定結果から前年（10月、23～24cm）並みになると考えられる。

・根室海峡～オホーツク海での漁獲対象資源は、太平洋沖合北上群が主体と考えられている。沖合北上群は前

年並みか上回ると予想されている。一方、根室海峡への来遊に深く関係すると考えられている国後島周辺海域の7月～8月の平均表面水温は、前年並み～上回って推移した（<http://www.jma-net.go.jp/hakodate>：函館海洋気象台）。一方、オホーツク海沿岸の表面水温は前年並み～下回って推移したため（函館海洋気象台）、根室海峡～オホーツク海の内海側の来遊条件としては前年並みと推測される。以上のことから根室海峡～オホーツク海の内海側に来遊するスルメイカは前年並みか上回ると推測される。なお、オホーツク海沿岸の表面水温は前年並み～下回って推移しているため、主漁期は11月以降と予測する。魚体は、道東太平洋海域での一斉調査の測定結果から前年（10月～11月、19～23cm）よりも大型の個体が主体になると考えられる。

表1. 漁況経過（主に7月～8月、速報値）

	漁況経過
高知	主要3港における釣り漁獲量（47トン）は、前年（63トン）を下回った。加領郷港における釣りCPUEは前年比89%であった。
和歌山	主要2港における釣り漁獲量（16トン）は、前年（48トン）を下回った。すさみ港における釣りCPUEは前年比71%であった。
三重	主要港における中型まき網漁獲量（44トン）は、前年（65トン）を下回った。釣り漁獲量は61トン（前年比144%）に増加し、CPUEも前年比215%であった。8月に中型まき網で漁獲されたスルメイカのモードは21～22cmであった。
静岡	主要2港における釣り漁獲量（38トン）は、前年（11トン）を上回り、CPUEも前年比166%に増加した。8月に伊豆半島東岸の定置網で漁獲されたスルメイカのモードは22cmであった。
神奈川	主要2港における定置網漁獲量は1トン（前年比101%）、釣り漁獲量は2トン（前年比55%）に減少し、CPUEも前年比78%であった。
千葉	主要3港における定置網漁獲量（7トン）は、前年（2トン）を上回った。主要4港の釣り漁獲量（22トン）は、前年（121トン）を下回ったが、CPUEは前年比192%であった（一部未集計港を含む）。釣りで漁獲された外套背長モードは20～23cmで前年（23～25cm）よりも小型であった。
茨城	5月～6月の主要港における沖合底曳網漁獲量は6.3トン（前年比17%）、小型底曳網漁獲量は10.9トン（前年比103%）であった。
福島	全漁港における釣り漁獲量は4トン（前年比13%）、CPUEは前年比72%であった。
宮城	主要10港における底曳網漁獲量は149トン（前年比284%）、定置網漁獲量は325トン（前年比59%）であった。釣り漁獲量（1,004トン）は、前年（703トン）を上回ったものの、CPUEは前年比101%であった。底曳網で漁獲されたスルメイカのモードは20cm（7月）、18cm（8月）で、前年（11cm、13cm）より大型であった。
岩手	主要7港における釣り漁獲量（2,757トン）は、前年（988トン）を上回り、CPUEも前年比131%に増加した。定置網漁獲量（1,266トン）は、前年（2,092トン）を下回った。定置網で漁獲されたスルメイカの魚体サイズは前年並みであった。

表1. 続き

青森	八戸港、白糠港における釣り漁獲量はそれぞれ2,420トン（前年比169%）、705トン（前年比80%）であった。CPUEは八戸港では前年比120%であったが、白糠港では92%であった。八戸港のまき網漁獲量（10,155トン）は、前年（1,661トン）を上回った。大畑港の釣り漁獲量は387トン（前年比84%）であり、CPUEは前年比71%であった。
道南	函館港の釣り漁獲量（355トン）は、前年（541トン）を下回り、CPUEも前年比68%であった。釣りで漁獲されたスルメイカのモードは19cm（7月）、20cm（8月）、22cm（9月）で、前年（17cm、18cm、20cm）より大型であった。日高支庁における釣り・定置網・沖底による漁獲量は（3,041トン）は、前年（1,654トン）を上回った。特に浦河港の釣り漁獲量は2,545トン（前年比226%）、CPUEも前年比138%であった。
道東	8月の釧路港の釣り漁獲量（274トン）は、前年（311トン）を下回った。8月のCPUEは前年比75%であったが、9月上旬～中旬は前年並みから上回って推移していた。釣りで漁獲されたスルメイカのモードは18cmと22cm（8月）であった。

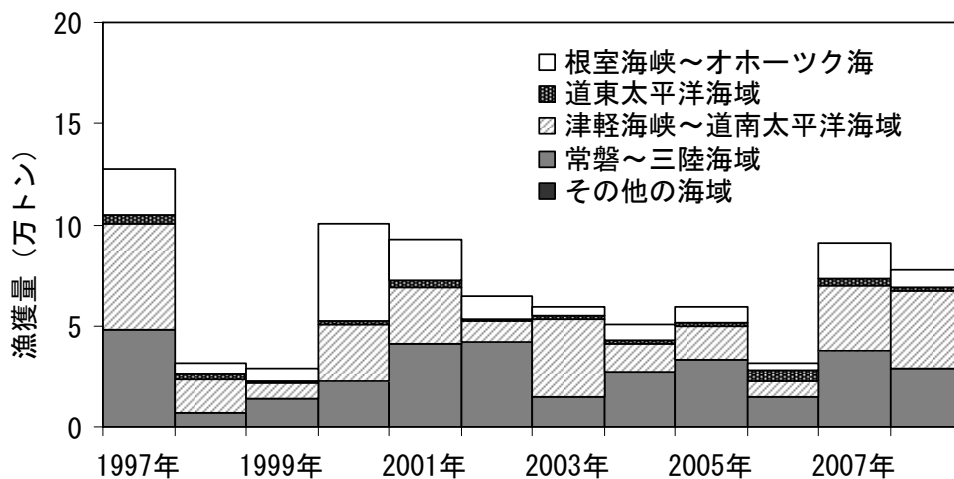


図1. 10月～12月の太平洋沿岸でのスルメイカの漁獲量（生鮮）
（釣り・定置網・底曳網・まき網）

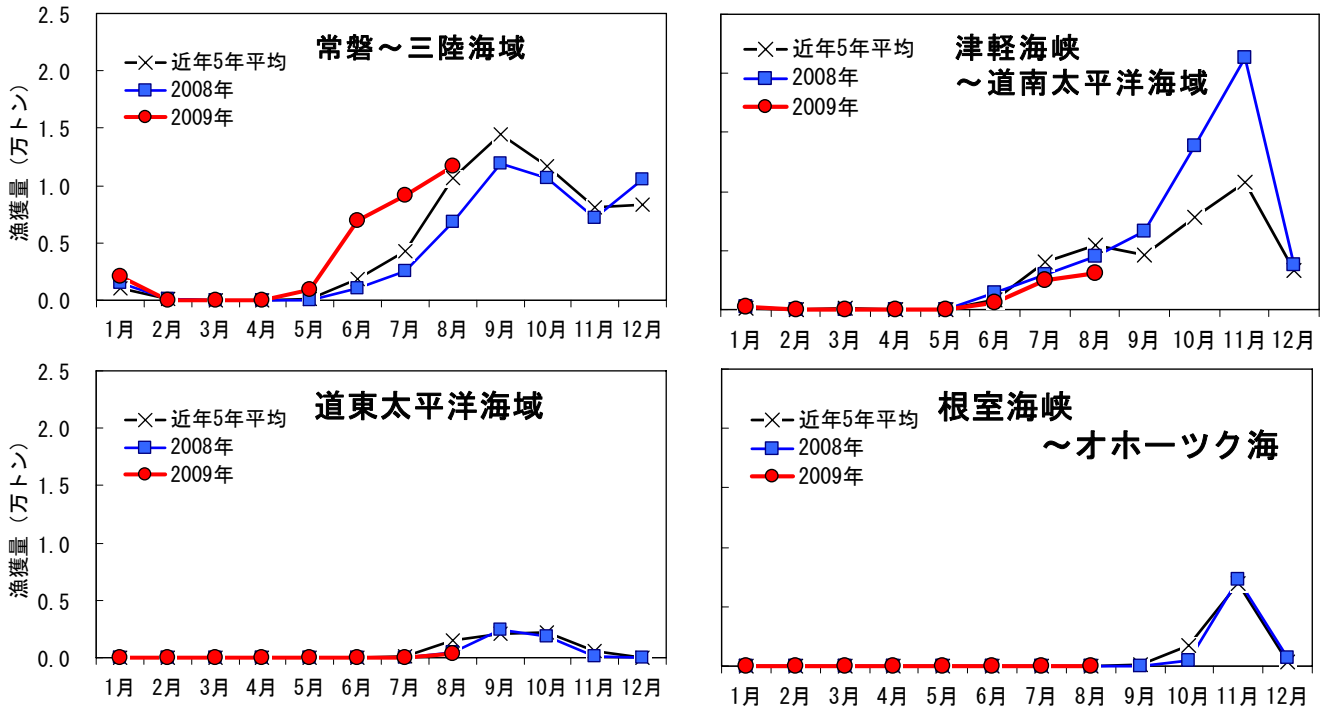


図2. スルメイカ月別海域別漁獲量 (生鮮)

最近5年平均は2004年～2008年の平均

(釣り・定置網・底曳網・まき網)

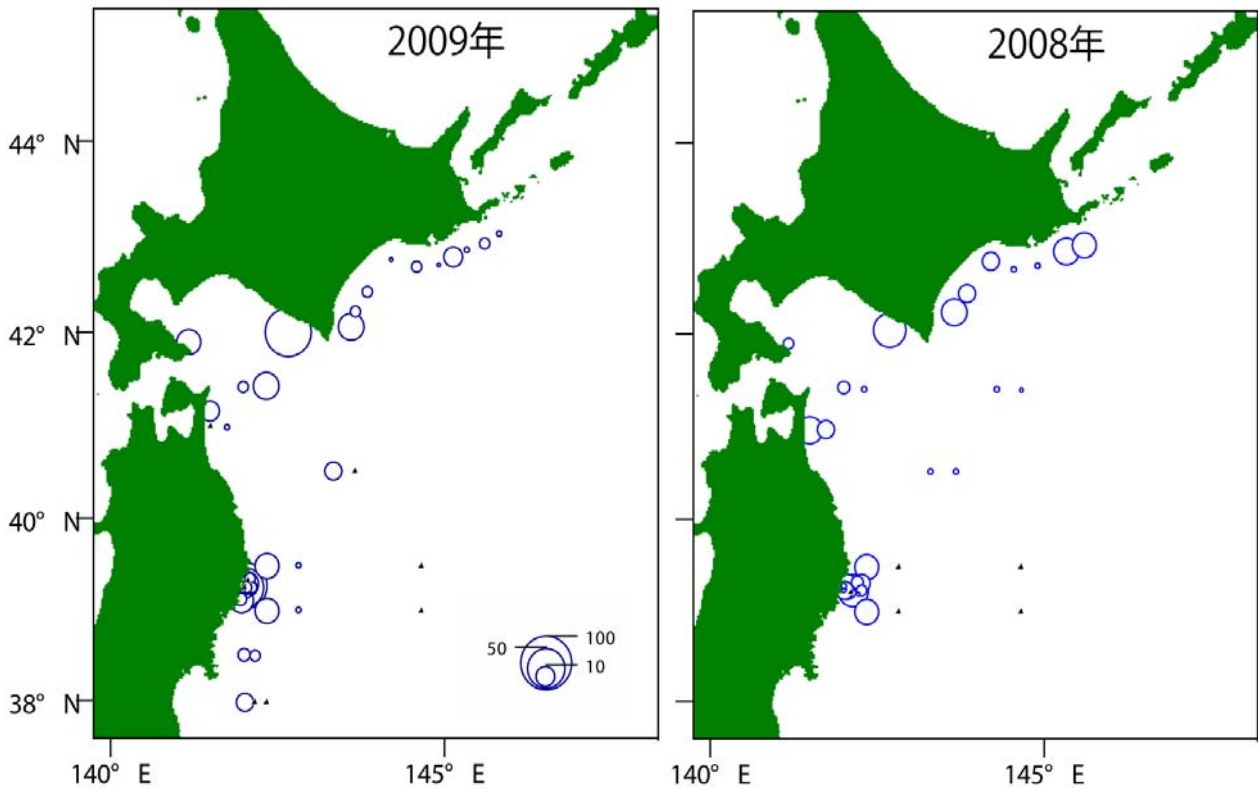


図3. 2009年と2008年の第2次漁場一斉調査および関連調査 (8月～9月中旬) における
いか釣り試験での操業地点とCPUE (釣機1台当たり漁獲尾数)、▲は漁獲なしの地点

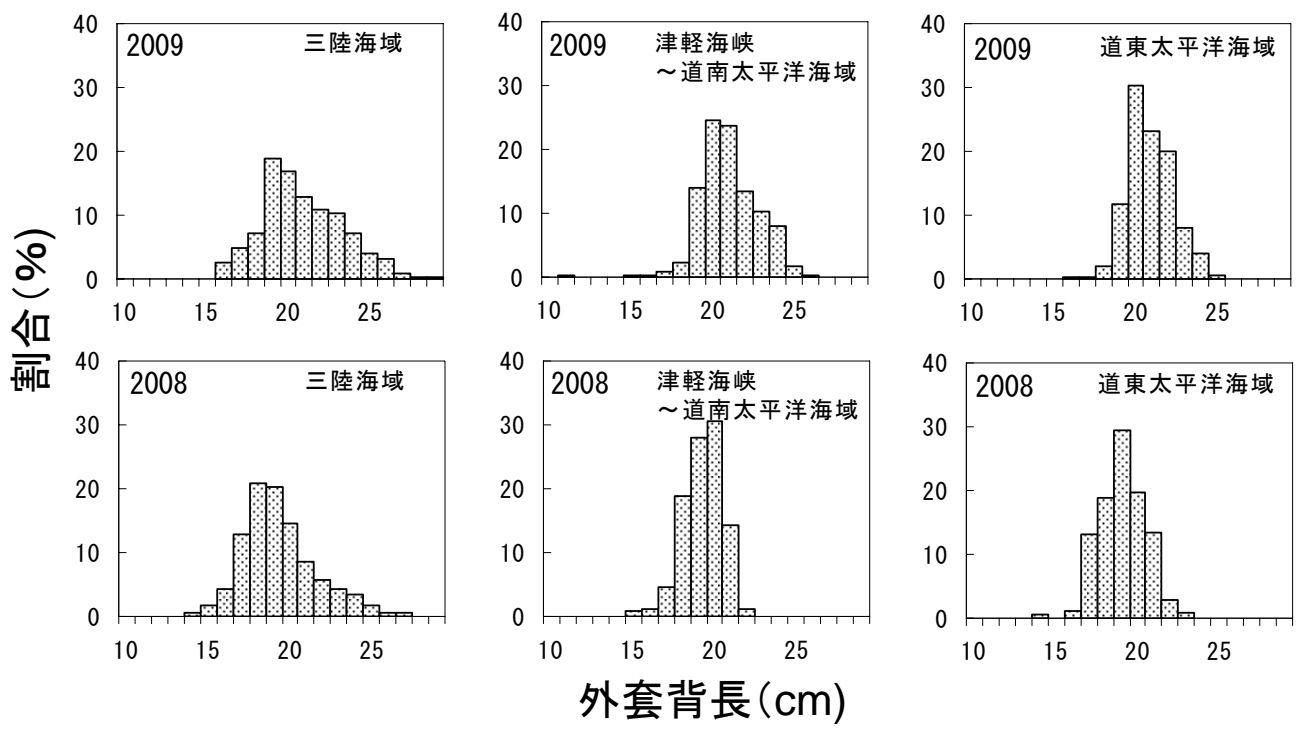


図4. 第2次漁場一斉調査による外套背長組成

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	静岡県水産技術研究所
北海道立函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
福島県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
茨城県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	東北区水産研究所
神奈川県水産技術センター	日本海区水産研究所